

熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2022

アスパラガス栽培において

被覆尿素肥料を用いることにより施肥窒素を3割減肥できる



写真1 アスパラガス



写真2 被覆尿素肥料

年	区名	総収量		可販物収量	
		(kg/10a)		(kg/10a)	
2020	標準	2396	(100)	2008	(100)
	LP窒素3割減	2342	(98)	2048	(102)
		n. s.		n. s.	
2021	標準	2449	(100)	2127	(100)
	LP窒素3割減	2400	(98)	2145	(101)
		n. s.		n. s.	

表 総収量および可販物収量

問 研究のねらいは？

答 アスパラガス栽培では多量の堆肥施用および施肥がなされており、環境負荷に併せて施肥コストの増加が懸念されます。そこで、被覆尿素肥料を用いることで、窒素施肥量を削減し、収量ならびに品質を確保しながら施肥コストを削減することができる施肥技術を開発しました。

問 研究の成果は？

答 保温開始前に窒素成分でLPS40を10kg/10a、立茎開始期にLP140を25kg/10a施肥すると、標準施肥(窒素成分で年間50kg/10a)と比較して、以下の効果が得られます。

- 1 窒素を3割減肥しても総収量および可販物収量は同等です。
- 2 規格別収量割合はLおよび2Lの割合が高いため、収益は高くなります。
- 3 肥料費は高くなりますが、追肥の労力が省かれることにより経費削減となります。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

答 被覆尿素肥料を牛ふん堆肥中やうね表面等に施肥すると、土壤中混和よりその窒素溶出は遅れるため、被覆尿素肥料施肥後は土壌と混和する等して肥効を安定させます。